

霧島山

概況

御鉢火口の噴気活動は低下傾向にありながら、依然としてやや活発な状態が続いています。監視カメラでは、6日に御鉢火口縁上から高さ500mの噴気が上がっているのを観測しましたが、それ以降は時折100～200mの噴気が観測される程度でした。5日には御鉢付近を震源とする継続時間1分の短い火山性微動が発生しました。また火山性地震は、月回数が19回と4月よりやや増えましたが、引き続き少ない状態で経過しました。

新燃岳の火山活動は、静穏な状態で経過しました。

噴気活動の状況

3月26日の微動発生直後から再び活発化した御鉢火口内の噴気活動は、次第に低調になりました。遠望監視カメラによる観測では、噴気を延べ6日間観測しましたが、6日に白色、少量の噴気が御鉢火口縁上から高さ500mに上がっているのを観測した以外は時折100～200mの噴気が観測される程度でした（図2）。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点A点）は17回（4月：9回）でした（図1）。

新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は12回（4月：3回）で、いずれも微小な地震でした。新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

御鉢

御鉢付近では、5日に継続時間1分の短く振幅の小さい火山性微動が発生しました。

御鉢付近を震源とする火山性地震は、1日あたり0～3回と少ない状態で経過し、5月の地震回数は19回（4月：11回）でした。

地殻変動活動の状況

GPS連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化は見られませんでした（図4）。

また、気象研究所の3点の傾斜計には、火山活動に起因する変化は観測されませんでした。

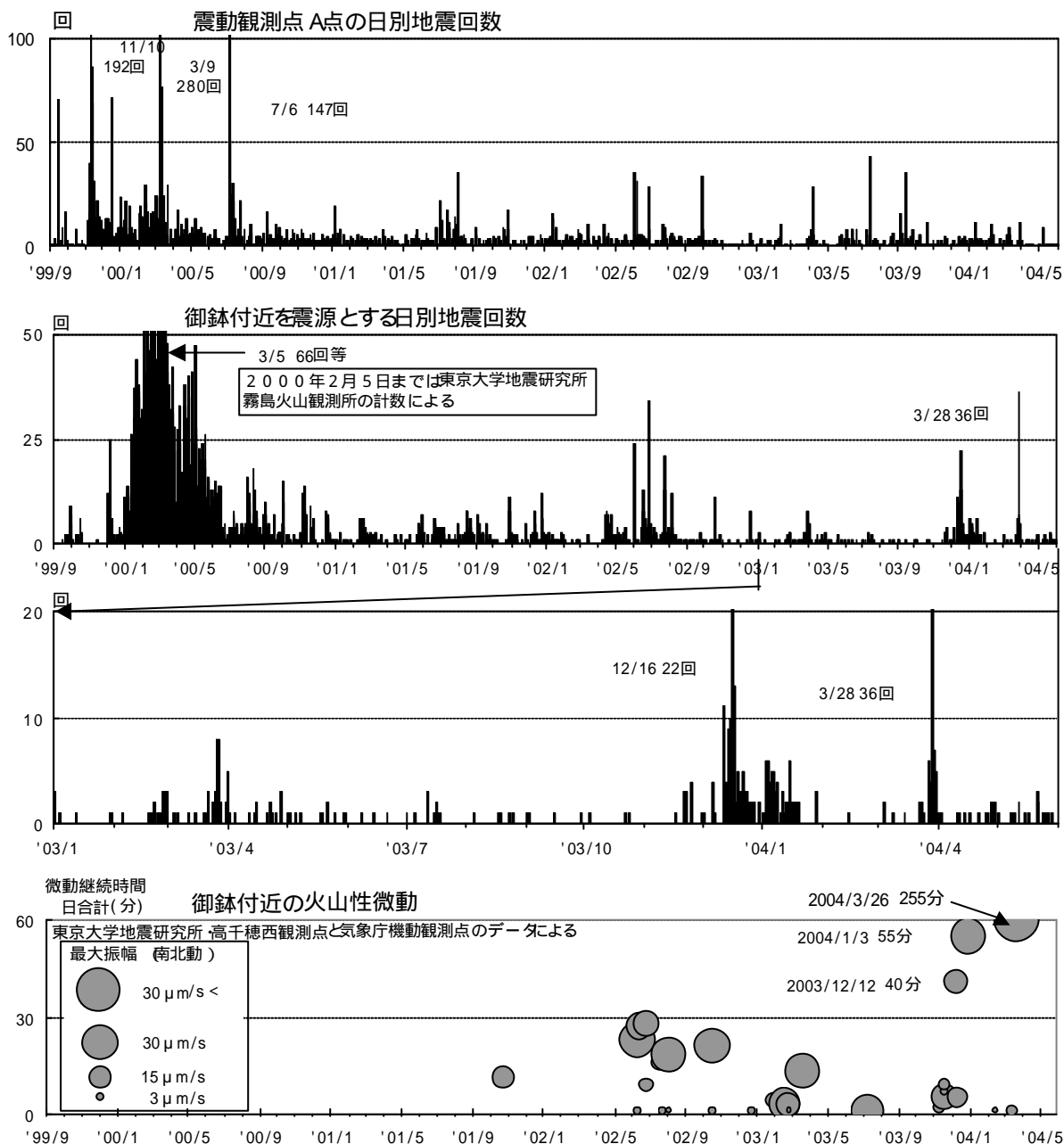


図1 火山活動経過図(1999年9月~2004年5月)

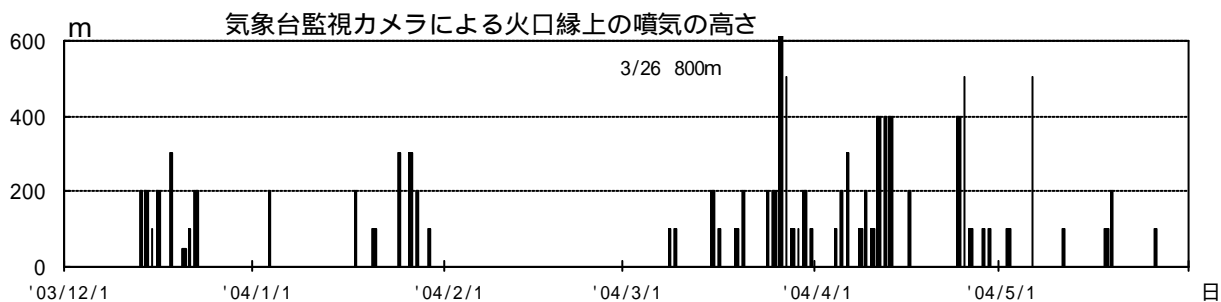


図2 御鉢火口の噴気の最高高度(2003年12月~2004年5月)

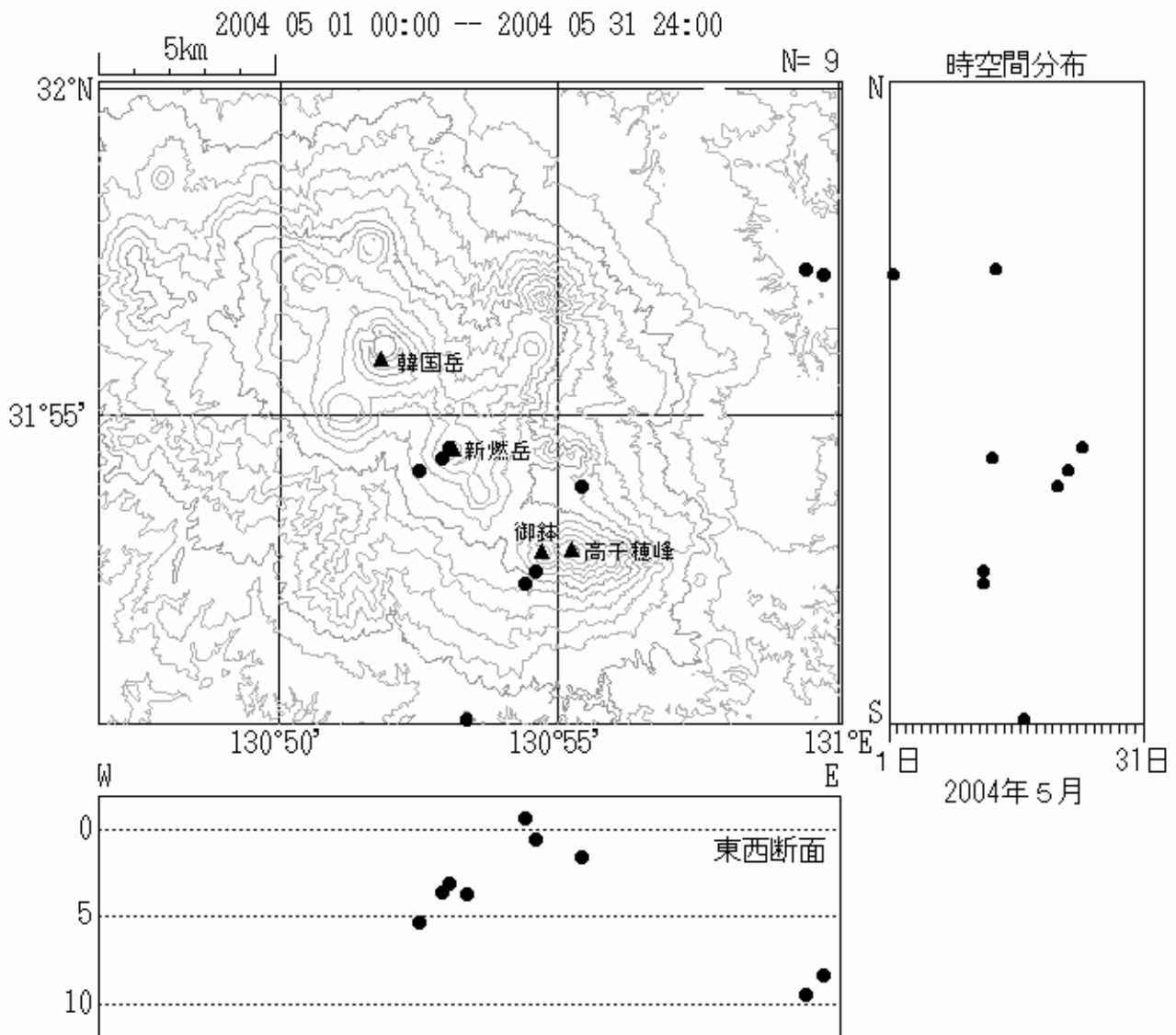


図3 震央分布図（上）断面図（下）時空間分布図（右）
 （2004年5月1日～5月31日）

本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

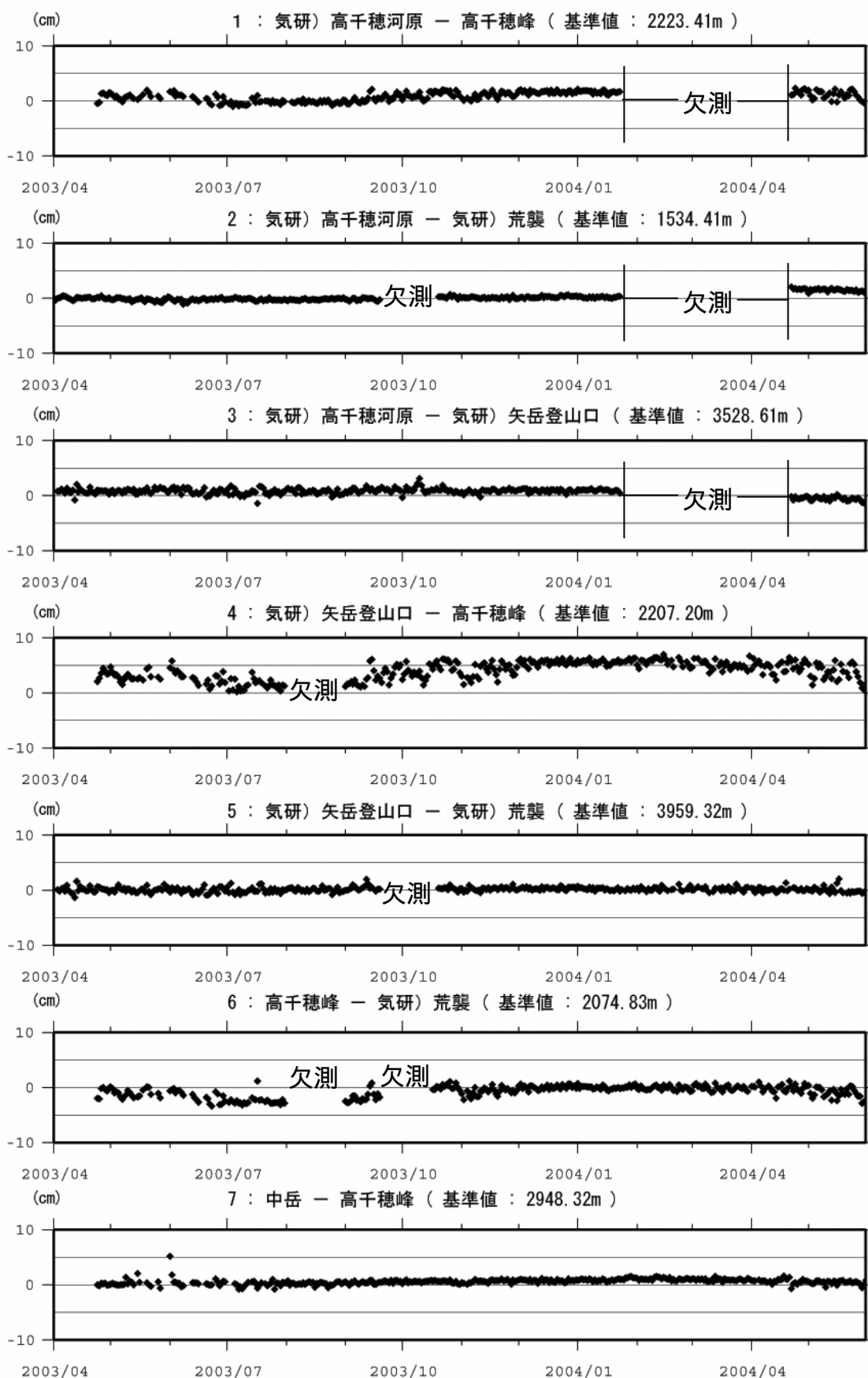


図4 GPSによる基線長変化(2003年4月1日~2004年5月31日)
 ・気研)高千穂河原観測点は2004年1月23日から4月22日まで欠測

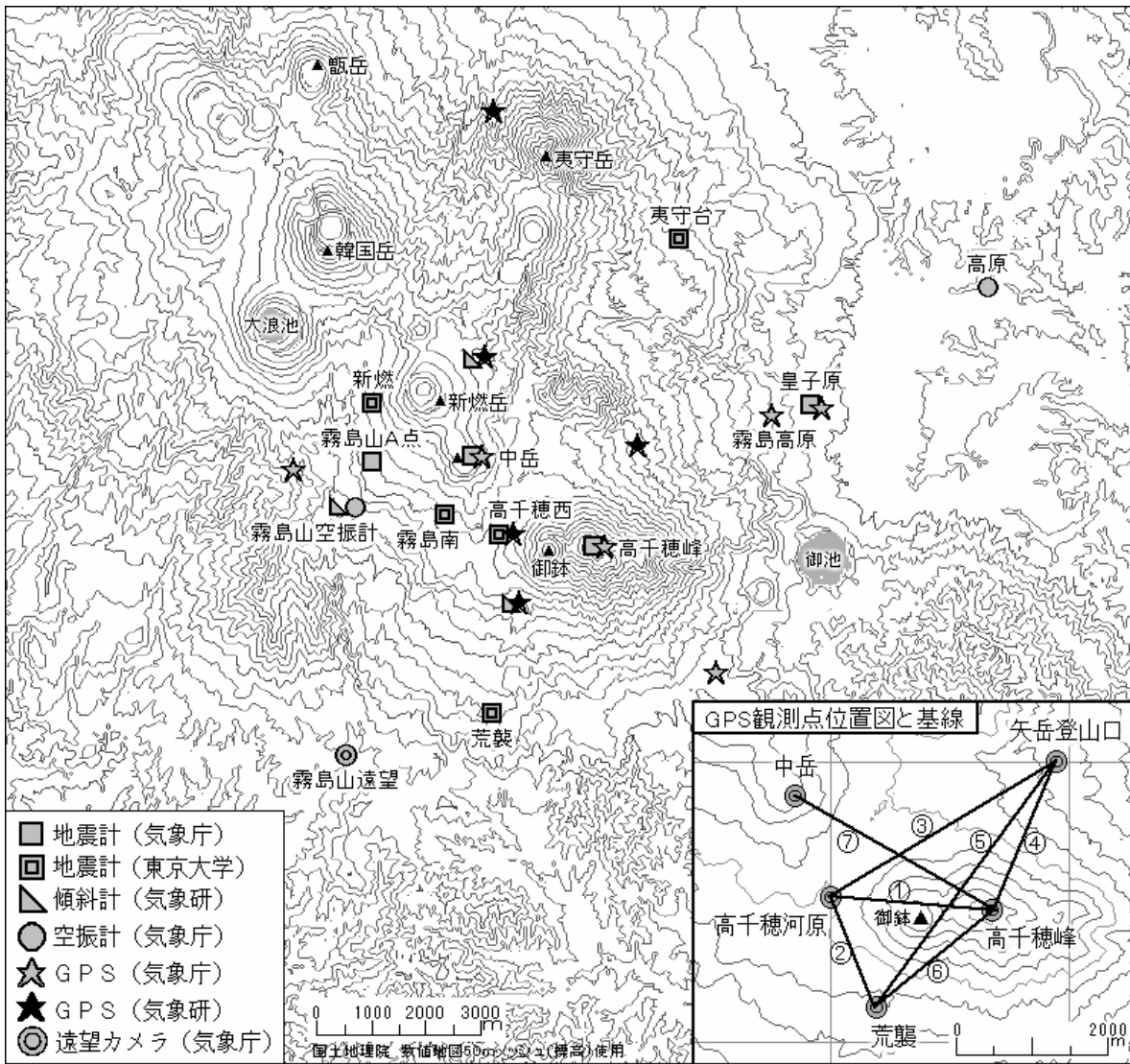


図5 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)